

～地域ケア会議を契機に始まった、地域と連携した取り組み～



みどり



【認知症高齢者と家族を支援するしくみづくり事業】

認知症家族会が主体となり、本人と家族の支え合う場づくりとして、「カフェ みどり亭」を基本的に隔月開催。
認知症家族介護者教室メンバーが主体的に支えあうシステムの構築・充実への取り組みを進めている。

『認知症になっても安心して暮らせるまち』

【多世代交流事業】

亀戸天神祭りで、施設前を子ども神輿の休憩スペースとして開放し、高齢者から子ども達にお菓子を手渡し、子ども・子育て世代・高齢者がふれあう行事を実施。



『東京・下町ささえあいのまち』

【「看取りのできる街づくり」の推進】

在宅での看取り多く行ってきた訪問診療所・賛育会病院の緩和ケア病棟がある地域性を活かして、「地域での看取り」を住民等へ普及啓発していく活動を開始。今年度は住民の会で、4回講話を行った。

実際に看取りを行った家族の感想や経験談を紹介し、自宅で看取りという選択肢を介護者に提供できるよう、事業を進めている。



同 愛



『個人と地域がつながるまち ～ひとりひとりが“ちから”支え合う街～』

【紙おむつのリサイクルシステム「おむクル」の創設】

「紙おむつが急に必要」「不要紙おむつの再利用したい」というニーズに対して、関係機関の協力のもと、地域の中で対応する仕組みとして、「おむクル」を創設。
10月から、圏内の協力拠点3カ所で配布・回収を開始。
2020年度には計10カ所の協力拠点設置を目指している。



なりひら

『東京・下町ささえあいのまち』

【「看取りのできる街づくり」の推進】

在宅での看取り多く行ってきた訪問診療所・賛育会病院の緩和ケア病棟がある地域性を活かして、「地域での看取り」を住民等へ普及啓発していく活動を開始。今年度は住民の会で、4回講話を行った。

実際に看取りを行った家族の感想や経験談を紹介し、自宅で看取りという選択肢を介護者に提供できるよう、事業を進めている。



こうめ



よわい

『一人ひとりが主役！誰もが安心して齢を重ねる健やかタウン・すみだ』

【まち歩きの実施 ～地域の「つながり」「介護予防の場」づくり～】

老人クラブが解散した地域で、住民同士のつながりを継続するため、町会や民生委員・児童委員と集いの場立ち上げに向け、話し合いを重ねている。
その一環で、地域リハビリテーション活動支援事業を活用し、理学療法士・作業療法士の視点を取り入れながら、地域の介護予防に資する活動の場づくり（スペース探し）を進めている。



【多職種連携の推進～各種の企画・取り組みへと結びつく～】

「 自助・互助を進める地域の課題と社会資源の共有 多職種連携で地域にできること」をテーマに、地域ケア会議（多職種連携）を定期的に開催し、情報共有・フレイル予防継続の仕組みづくりを進めている。

< 具体的取組・成果 >

- ・ サービス事業者間で、介護保険外の取り組みを情報交換し、メリットやデメリットを共有。
- ・ 多職種連携での「高齢者の集いの場・活動の場」を企画。年度内実現を目指す。
- ・ フレイル予防を具体化に向けた、多職種連携会議を5回開催し、11月に住民対象のイベントでの企画実施に結実。同企画では、展示・相談ブースを設け、福祉用具・住宅改修、足と靴と歩き方、体組成計測等の実践やアドバイスを予定。



『助け合い垣根を越えてつながる街～わたしが主役の街づくり～』

【小学校でたまご（他孫）くらぶ～11月は「観望会」に参加・協力～】



地域ケア会議（地域ネットワーク）にて、地区内4小学校の地域参加型の活動や、多世代交流の取り組みを共有したことで、高齢者が小学校で活躍するための課題を明確となった。

まずは、高齢者が小学校（小学生：たまご（他孫））を身近に感じ、役割を持って活躍する足掛かりとして、11月に実施される第一寺島小学校での月の観望会（一寺小屋プロジェクト）への協力・参加を検討している。

観望会成功に向けて、高齢者自らができることを提案してもらい、具体策の検討・準備を進めている。



【お薬きちんとプロジェクト ～知ろう！飲もう！聞いてみよう～】

地域の集いの場で以下の取り組みを展開

- ・ 薬剤師等による地域住民向けの講座が定期開催（2カ所）
- ・ 救急情報キットの周知（4回）
- ・ ケアマネジャー向け研修「こんな時どうする？服薬の支援と対応」の実施



『みんなでつくる「おたがいさま」のうめわか地域』

【「いのちを守るネットワーク事業」】

地域での要配慮者の実態把握及び住まい・防災に関する啓発を目指し、『住まい・防災チェックシート』を作成。

今後モデル地区の町会で実施し、分析・評価を行う予定。



【「ちょこっと見守りサービス『みまもりネット』」準備中】

「ちょこっとサービス」を行っている地域情報を把握し、たちばな・文花10種類目となる『社会資源リーフレット』づくりを開始。

既に関係機関と共に作業部会を立ち上げ、作成に向けた準備作業を行っている。



『粋生（いきいき）と、温かく、おせっかいな人が住む街～咲かせよう、文花・立花の花～』

【『たちばな・文花ウォーキング』プロジェクト始動】

高齢者の閉じこもり防止、筋力・健康維持等につながる散歩ルートの設定やマップづくり、さらにはウォーキングを通じた地域の多世代交流を目指すイベント開催に向けて、関係者と2回の意見交換を実施。

来年度以降のイベント開催に向けて、プロジェクトも始動。



【「東京五輪2020音頭」で地域を元気に！】

老人クラブ会員等の地域の高齢者に対して、「東京五輪2020音頭」の普及活動を支援。新しい踊りに取り組むことで集う目的ができ、老人クラブの活性化、介護予防につながっている。



『世代を超えて優しいまち』

【自主グループ立ち上げ・継続支援を実施中】

- ・ 東京都理学療法士会、東京都作業療法士会と協働し、地域の老人クラブへ介護予防の重要性についての働きかけを行い、10月から毎月1回体操教室を自主化。リハ職の支援を得て、今後は参加者が体操の指導を行う予定。（1団体）
 - ・ 「声出し脳トレーニング教室」の修了者がNPO法人と協働し、12月からの自主化を準備中。
- はなみずきでは、会場確保を後方支援。

